

「(仮称)都市計画道路 諏訪バイパス 環境影響評価方法書に対する知事意見に基づく調査地点等の報告」に対する助言に対する見解

[全般]

- 1 準備書において、避難坑、避難連絡坑、立坑等の設置の有無を明らかにすること。また、これらの坑道を設置する場合には、その影響についても適切に予測及び評価を行うこと。
⇒避難坑、避難連絡坑、立坑等の設置については、今後事業実施段階における工法検討の上で決定することから、その設置について準備書の段階で明らかにすることができません。

[事業計画]

- 2 対象事業実施区域及びその周辺の活断層に係る既存文献の精査、活断層の存在が疑われる微地形の有無の調査等を行い、その結果を準備書に記載した上で、事業の安全性を住民に分かりやすく示すこと。
⇒既存文献における活断層の情報は準備書において整理しております。
⇒事業の安全性については、長野県環境影響評価技術委員会の方法書審議において従前説明したとおり、事業実施段階で安全面に配慮した道路構造、施工方法等を検討していくこととなり、その旨は準備書に記載しております。

[水象]

- 3 本事業では、地表から比較的浅いトンネルが計画されているため、トンネル掘削により河川流量の減少等の影響が生じるおそれがある河川については、自記水位計を用いた河川水位の連続観測を実施した上で、事業による影響についての的確に予測及び評価を行うこと。
⇒過日の河川の現地調査では「長野県環境影響評価技術指針」を参考に1年間以上の連続的なデータを把握するため、月1回1年間の調査を実施しております。
⇒トンネル掘削による河川流量の減少等の影響については準備書において整理しております。
- 4 地下水位の調査については、極力自記水位計による連続測定を行うこと。また、諏訪地域の極めて重要な資源である酒造水源や温泉源泉への影響について慎重に予測及び評価を行うとともに、これらに含まれない個人所有の井戸についても、分布、諸元、利用形態等を調査した上で、事業による影響について予測及び評価を行うこと。
⇒過日の地下水の現地調査では「長野県環境影響評価技術指針」を参考に地下水位の長期的な変動を把握するため、月1回1年間の調査を実施しております。
⇒酒造水源や温泉源泉への影響については準備書において整理しております。

[植物、動物]

- 5 メガネサナエについて、令和元年から県諏訪地域振興局環境課と日本トンボ学会が合同調査を実施しているため、調査結果を共有した上で、適切に調査、予測及び評価を行うこと。
⇒長野県諏訪地域振興局環境課と日本トンボ学会の合同調査結果を確認及び内容検討し、準備書において整理しております。

- 6 鳥類に対するコールバック法は、警戒行動を引き起こさせる等、対象種に悪影響を与えるおそれのある調査手法であるため、他の手法を用いること。
⇒過日の現地調査では専門家の意見を基に、必要最低限としてコールバック法を活用した調査を実施しております。
⇒鳥類の生態を踏まえた必要最低限としてコールバック法活用を行った旨、準備書において整理しております。

[触れ合い活動の場]

- 7 工事の実施により、人と自然との触れ合いの活動の場へのアクセス性が悪化することのないよう、工事計画の検討に当たって配慮すること。
⇒工事実施による人と自然との触れ合いの活動の場へのアクセス性が悪化しないよう工事計画を検討し、準備書において整理しております。